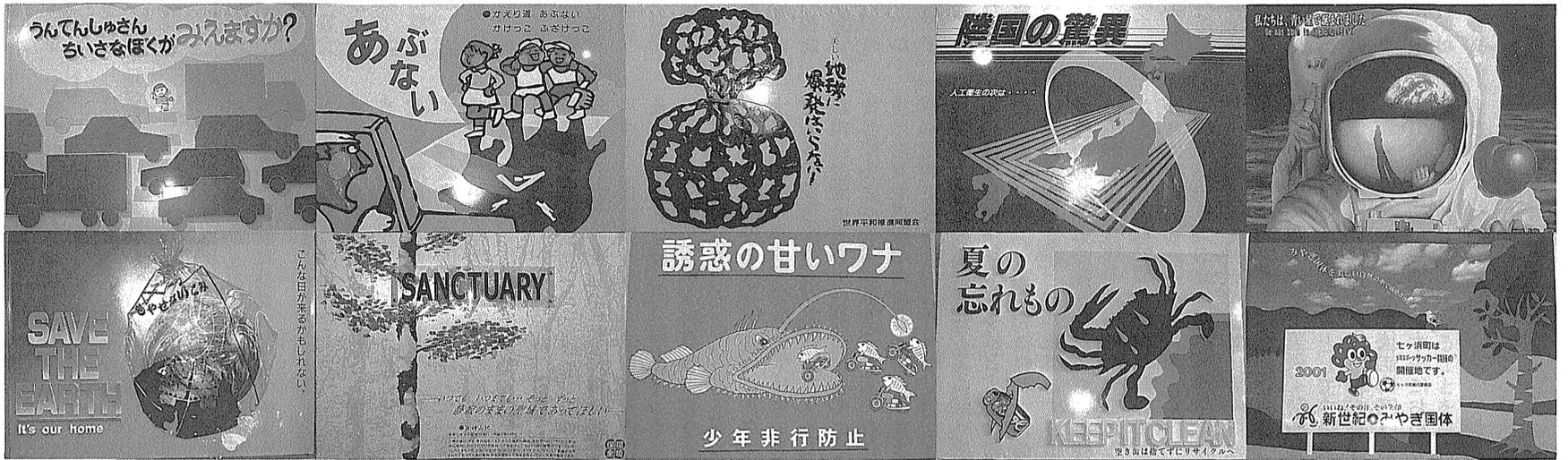




# 第10号

発行所  
東北地区屋外広告美術業組合連合会  
情報文化委員会  
事務局 仙台市宮城野区原町三丁目4番10号  
TEL 022-257-0437



## 第21回東北六県公共キャンペーン作品展 「社会・環境問題がテーマ」時代を語る名作が大集合!

建設大臣賞にナリタ工芸・岩手



東北六県公共キャンペーン作品展

### 講評

デザイングループ'60代表

花巻庄司

まず、東北地区屋外広告美術業組合が、会員の技術向上と屋外広告の社会的役割の大きさを自覚して、過去20回もこうした催しを継続してこられたことに敬意を表します。

21回展の審査をさせていただき感じたことは、さすが日常の仕事が反映して、文字はみな大変上手であった。また白の生かし方を心得ている作品も多かった。ただ文字と図柄の関係で、文字が全体的に大きすぎはしないかと思いました。ビジュアルデザインですから、まず、図柄で目をとらえ、ほどよい大きさの文字でしっかり伝えることが大切かと思えます。レイアウトの面で主従関係が明確でない作品も見つけられました。どれが主役でどれを脇役にし、チョイ役はどれかといったことが、もう少し考えられれば、スッキリしたものになるのにと、表現技術がすばらしいだけに、おしまれる作品もあったと思います。主従関係でもう一つ云えば、ホワイトスペース(余白のとり方)をもっと考えられたらとも感じました。

戦後、米国から入って来た「よい宣伝」をあらわす言葉に、「A I D M

A」というのがあります。注意を引き、興味をわかせる、欲求をおこさせ、記憶にのこさせ行動させるという意味で、単語の頭文字をならべたものです。一つの広告物で、これだけのことをさせれば満点で、一つの理想でしょうが参考になると思います。現代では、この他に社会的責務や、環境といったものをつけ加える必要があるのでしょうか。

集まった東北六県の優れた作品を、各方面に提供され印刷物等へ活用してもらったり、この催しを、もっと世にアピールすることなど考えられて、組合と作品展がますます発展されることを願いたいと思います。

#### 〈作品評〉

##### ○建設大臣賞

紅葉マークとハートの形を、大小に2回くりかえしながら全体的に安定した構成と、線状の類似色でまとめたところが美しい。また白の使い方が効果的である。

##### ○日広連賞

難を云えば文字が大きすぎると思うが、色と形がシンプルで力強さがある。銃とハトはよく見る素材だが、ハトと銃の扱い方が半立体的で、その工夫がおもしろい。

##### ○地区連会長賞

たくさんのものを、白と色のグラデーションを生かしながら、動的にめりはりをつけ上手にレイアウトしたところがよい。人物のイラストの顔が米なものほほえましい。



#### ●地区連会長賞 大井看板・山形県 大井 哲



'99スポレク全国大会が山形会場と云う事で、今回のテーマはスポレクでした。

コンセプトとしては、楽しい、とか和気あいあいとかを前面に出し、楽しむスポーツとしてのイメージで製作いたしました。選手を米つづにして、庄内平野をバックにのびのびとサッカーをやっている様子を描いたのも、より楽しさを出せると思ったからです。

東北六県のすばらしい作品の中から選ばれる事は、大変な事なので本当にうれしく思っております。光栄です、ありがとうございました。

※スポレク(スポーツレクリエーション)大会



#### ●日広連賞 アートサイン平館・青森県 竹ヶ原 隆夫



パネル製作時期に北朝鮮から日本へミサイルが発射されるニュースがあり「戦争反対」をテーマにした作品は過去にあまりなかったと思い、今までとは違った雰囲気のものを作ってみようという考えがありました。

作品は赤、黒、白の三色。絵だけでもメッセージが伝わるようにして言葉は省いたのでとてもシンプルなものに仕上がったと感じています。が、まさかの受賞に大変驚いております。本当にありがとうございました。



#### ●建設大臣賞 ナリタ工芸・岩手県 成田 玄治



市民展出品の為のガラス絵からヒントを得て透明板に裏からフィルムを貼った作品。

大きなハートで紅葉マークを包み込む様なイメージを出すのに、ハートの色と紅葉マークの色を、交互に貼る事を思い付くまでに時間がかかった作品。

地下鉄駅のガラス看板を思い出させてくれた作品。今までの出品作品と違って、楽しんで製作出来た作品。

こんな作品が受賞できて、とても嬉しく思います。



東北地区屋外広告美術業組合連合会会長  
須賀 政雄

### 「あいつ」

新年度を迎えるにあたり、組合員の皆様のご多幸を祈ります。

長期化する経済不況は何時まで続くのか「何処まで続く泥濘ぞ三日二夜食も無く」と言う歌が戦前あったが、一部には景気の底入水論も報じられておられます。この様な時代に私達に求められるものは組合員同士の情報交換を密にして信用し、協力し合うことが一番大事なことではないでしょうか。

昨年二月二十七日実施された第十七回技能グランプリには東北勢が上位入賞を果しました。労働大臣賞、一位金賞に五日市 剛氏(アートサイン平館、青森)二位、銀賞に大井 哲氏(大井看板・山形)二位、銀賞に照井勉氏(テイルイカンバン(柳)・秋田)優秀賞、野地良三氏(柳)アーム工芸・福島)の四氏が入賞し、ここ何年間に亘り技能グランプリは東北の時代となりました。現在はデザインも文字もパソコンの時代と言われておりますが基礎がしっかりしていなければパソコンでのデザインも文字も生かされないと考えます。ご本人の精進の結果でありますが、東北地区連と致しまして心からおめでとくと申し上げると共に東北の技能のハイレベルをアピールして頂いたこと感謝致します。本年も三月五日に第十八回技能グランプリが千葉職業能力開発センターを主会場に開催されますが、この機関紙が発行される頃は結果が発表されておると思いますが今年も上位入賞の出ることを祈ります。

は大変有意義なことと思います。企画運営にあられた役員の方々に敬意を表します。

日広連にあっては本年六月に四十年記念事業を行なうことになっております。節目をキチッとやることには大変なエネルギーが必要で、

屋外広告士が国家認定資格として認められてから本年は三回目の屋外広告士登録者の更新講習会を仙台で開催する予定です。有資格者は必ず受講して登録の更新をお願い致します。屋外広告士については現在建設省にあっては平成十二年の屋外広告物法と屋外広告条例の改正と見直しの作業に入っております。これからは屋外広告士の重要性が増して行くものと思われ、現在登録されている方々の更新は勿論ですが、屋外広告士の試験を受けて一人でも多く資格を得る様お願い致します。組合運営については役員の方々の苦勞は大変なものと思いますが、組合員の方々も不況の時代こそ組合の重要性を認識され組合の運営に積極的に参加されること願っております。「屋外広告の日」の行事については日広連の総会の資料の全国の単組の活動状況が報告されております。これを見ますと地域性のある事業活動を行なっている様に思われます。他の単組の事業を知ることに依り、自分達組合の事業計画の参考になるのではないのでしょうか。昨年十一月二十六日技能検定功労者として岩手広美の高松工芸代表一条八平太氏が労働大臣賞を受けられました。又、青森広美の(株)ニッタ美術工芸の田勇氏が技能検定功労者として中央職業能力開発協会会長から感謝状を受けられました。長年に亘る技能検定員として大変ご苦勞様でした本当におめでとうございませう。



青森屋外広告美術業協同組合  
理事長 千葉 裕

### パソコン通信のすゝめ

昨今、サラリーマンが出勤して最初に行う事は、自分のデスクのコンピュータのEメールを見る事だそうである。

勿論これはある程度社内インフラネットワークが進んだ中堅以上、あるいは積極的に推進している会社でのことと思うが、会議の頻度や文書のやりとりが、以前に比べて相当に少なくなっている事は容易に想像できる。

担当部署にメールを送り受けする事で、情報伝達を簡略にして社内作業効率をあげて合理化を計っている訳である。我々の業界でもそのような取り組みを進めている企業もあるかと思うが、今一般的に一番利用されているのはファックスミリであろう。一昔前までと違いほとんどの企業、事業所でファックスの設置はごく普通のこととなっており、事実ファックスによる連絡、情報は相当量のものがある。相手の在、不在にかかわらず送信できるし、返信もできる、電話でのやり取りと違って原稿の読み違いミスも少ない。もつとも必要のない情報が勝手に送られてきて無駄に用紙が使われるというマイナスもあるし、送信したくないのアクシデントも無いわけでもない。とは言っても、現在のところ我々サイドでは最も利用頻度の高いメディアであることは言うまでもない。昔のファックスは遅い、不鮮明など実用的にはいろいろ問題もあったし、回線の問題もあったが、現在ではスピード、鮮明さは問題ない程に改良されている。一方、ファックスと違って、最初に言ったようなインターネットなどのパソコン通信は実際にはさほど利用されていない実情にある。確かにファックスと比べるとパソコン通信は厄介な点が多く、なかなか馴染めないと云う事情はあると思うし、

基本的に利用形態は異質のものと言え、一義的に比較する事はできないが、しかし実際パソコン通信はその情報量の多さや多様性、可能性の面で比較にならない程優れている。

ご承知のごとく、現在行政も可成の子算を計上して普及員、指導員の教育に力をいれており、通信関係機関では情報量、スピードの飛躍的な増加を目指して従来では考えられないような方式などを研究、実験中と聞いている。従って現在進行形の形にあり、アメリカの情報ハイウェイに匹敵するインフラ整備が期待されている。

我々の業界で仮に、パソコン通信がファックス並に普及したとすると、現在ファックスの使用で得ている利便性とは比較にならないメリットを創出することができ。簡単な例でいえば、組合事務の効率化が考えられる。自分の会社の賦課金や共済掛金の納入状況を自分のサイドから調べることが出来るし、事務局からの請求もメール上で可能である。双方向性のメリットの例である。また単組の事務局に蓄積されている種々のデータを検索して利用することもできる。勿論、現在日広連で開設しているニフティ・サブやインターネットに繋いで情報を得たり、フォーラム内でチャット会議などとも云うことも考えられるから、会議の数も減らす事が出来る。おそらく、近い将来、大方このような状況になるであろう事は疑いないし、すでに取り組みを終え、活用なされている向きもあると思うが、その取り組みが現在のように遅々としたものであると、他に立ち後れた業界にならざるを得ないのではと心配である。

事を三十有余年続けてまいりました。そして、できるならば六十代の後半には事業継承を行いたいものだと考えながらやっております。

しかし、事はそううまくは、はこんではくれませんでした。いま、振りかえって見ますと創立当初は、資金面でも人的にもまったく思うようになりませんでした。本当に血がにじみでるような困難との闘いもございました。

お金のことで、五十九才の若さで亡くなった父に大変お世話になりましたが、その父も現金では絶対に貸してはくれませんでした。保証人にはなつてやるから銀行から「自分で借りて、自分で返せ」それが親爺の口ぐせでした。そばに居る母親がそと耳もとで、「ハイ」と言いなさいと囁やいてくれたことを思い出します。その母も八十八才で平成八年にこの世を去りました。東京オリピックの前後を境にして会社の業績も順調になり銀行やお得意さまの信用も得たんとかひとり立ちができるようになりました。そして曲りなりにも今日まで事業を継続してまいりました。私はつねに、仕事は後継者に胸を張ってつがせる事業でなくてはならないと考えてきました。また、そこで働く人々が夢と希望もてる職場を造りたいと思つて頑張つてまいりました。社長という職業は、常に先頭に立って社員の誰よりも働き、物ごとを考え社員の信頼に応えなければならぬのです。一般常識からはじまり、政治、経済のこと、社員の誰が、どこで、どんな仕事をしているのか、また何を考えているのか少しでも知らなければならぬ。その努力を惜しんではいけないと思つております。とても、私のような凡人にはよその会社の社長さんのようにロータリークラブやゴルフをやっている時間はありませんでした。私はかねがね、分社経営こそが一人ひとりの能力を発揮でき、新たな市場の創造につながるものと信じてまいりました。

昭和五十八年製作部門を分社、平成八年には営業、イベント関連、JR部門をそれぞれ分社いたしました。私は、代表権をもたない取締役会長として必要に応じ相談に乗ってまいりたいと思っております。

親しい人々から創業者としてなぜ代表権をもたないのかと聞かれます。大企業ならまだしも、私たちのような零細企業に二人の代表がいるのではどうか、トップが二人いて一番こまるのは社員なのです。社員はどちらの考えにしたがえば良いのでしょうか、アメリカの大統領も、日本の総理大臣も学校の校長先生だって皆んな一人なのです。

いままさに変革の時代です。制度改革(ビックバン)がいろいろあるところで行なわれようとしています。戦後五十有余年使用したあらゆる社会の枠組みが制度疲労をきたしているのです。いま、私たちに求められているものは人間誰でもそれぞれの立場で一生懸命に努力をすればそれなりに報いられる仕組みだと思えます。私は分社化を通じてそのことを実践して見たかったです。

### 年頭所感



秋田屋外広告美術協同組合  
理事長 石黒 征幸

新春を迎え、東北地区連のご活躍と、皆様のご繁栄を、心からご祈念申し上げます。昨年を顧みますと、景気の後退がより深刻化し、我々中小企業経営者にも大変厳しい年でありました。特に、最近の業界を取り巻く環境は、規制緩和による競争の激化、労働時間の短縮、さらには、長引く不況による企業広告の一層の削減等、多くの課題への対応を迫られております。このような状況を打開すべく、政府は数次に

### ひとりごと



岩手屋外広告美術業協同組合  
理事長 高橋 徳一

私は、小さな会社の責任者という仕

わたる経済対策を打ち出してきました。一向に我が所の届かず見えずというところが実情であります。

一部経済人の話によると平成11年は少しながらも景気に明るさが見えてくるというような事を耳にしますが、それも実際形になって見えるまではやはり安心できないのが今の経済状況ではないでしょうか。それでも我々中小企業経営者としては、政府や経済人の望みある話に耳を傾け、明日につながるよう夢を託し前向きに頑張っていきたいと思っております。

現在、秋田県におきましても県屋外広告条例が改正されて、広告物等を管理・保守点検届出には建築士・屋外広告士その他の規則で定める資格を有する者でなければならずと明記され、また、広告物管理者としての主役的位置づけ、安全点検報告者及び景観アドバイザーとしての役割を担うなど、その資格の活用・活躍の場が拡大しつつあります。

このような状況下において我が秋田美も、遅ればせながら全国屋外広告士会秋田支部を結成し、屋外広告士の社会的地位の向上、支部組織の強化・充実を図ってゆく所存であります。

こんな不況の折りにこれどころではないと思われがちですが、これから先我々事業者にとりまして大切な資格であることは間違いありません。少しは良くなると思われる景気に前向きに頑張るべく、お願い年頭の挨拶にいたします。

東北地区連合会総会に寄せ



宮城県屋外広告美術協同組合 理事長 高木 義弘

かつて味わった事のない、最長記録を更新した不況に日本の経済が何処を目標として進むのか不安を抱きながら新年をむかえた、もう三月も半ば、羅針盤を失った巨大な船が行き着く港もなくただただ、暗い海をさまよっている。

企業は常にあまり努力をせずとも経済が成長するものと、錯覚をしながら今日を迎え、成熟社会とはいかなるものか、真の競争社会であることを肌で感じざるを得ません。

経済が拡大することは個々の企業の拡大が約束され、社員の生活保証がしめされる。洋々たる未来が約束される、こんな安心できる社会が一日も早く来ることを願いたい。

残念ながら今の日本経済のなかでは有りえないことです。これは、弱肉、強食の社会であることを示唆しております。

公共投資が減少傾向にある、特に箱物といわれる建築物が少なくなろうとしている、今、会員企業にとって体質の改善こそ急務であります。

情報の収集、社会情勢の早期把握、即時転換できる業態への対応と変化できる体質にしておく事が重要であります。その一つに、建設省が企業の体質強化と企業合併に向けた指針を作った指導していると聞いております。

それは、自由化に向けた建設業界の体質強化の一環と見るからです。我々業界も社会情勢に対応できるよう細心の注意と、急激な変化に対応できるよう準備が必要です。

今、日本のすべての業界に言えることは、零細業者を含めた業者数が余りにも多すぎるという言葉です。この厳しい状況のなかで、生き残るために、組合をどう活し、組織をどう活用するかは、組合員一人ひとりの行動にかかっています。

大変厳しい状況の中ではありませんが、会員の企業が生きて活動できるよ、将来に向けた情報提供ができる地区連であることを願わずには居られない。

最近、日広連紙を見てみると、会員の数が急激に減少している様子が伺われる。経済的な将来への不安、政治的な不安定さ、等々、上げればキリがないほど政治に対する不満が多い、その反動が買い控えに繋がって消費構造の変化となっている。我々業界もその煽りを受けて大変厳しい情勢である。この時期にこそ会員同士の信頼と意義ある

連携が新しい道を開くものと確信しています。今年は皆さんと共に希望のもてる1999年でありますようお願いご挨拶とします。

「えい!の法則」



山形県屋外広告美術協同組合 理事長 増田 隆

昨年、私たち山形の組合は、組合創立40周年の節目を迎え、記念式典を始め、数々の記念行事を無事挙行することが出来ました。

これも、一重に東北地区連、ならびに東北六、県各組合の皆様のご協力によるものと深く感謝申し上げます。

さて、40周年の節目を通過した今、これからの私たち組合の行末を考えますに、何かと不安を感じる今日この頃です。

既に、皆様もご存知のように、我々業界を取り巻く環境には大変厳しいものがあります。経済状況を始め、屋外広告物条例の改定等、数え上げればきりがなく、決してこの業界にとって楽観的に考えられる要因は見当たりません、まったく、逆風の中を進まなければならぬ状況のようです。

このような時代は、もちろん先を読んで、冷静に判断をし、舵を取らなければなりません。それと同時に行動するバイタリティーを持つことが必要かと思ひます。

「見る前に飛べ」と書いたのは大江健三郎、「青年よ、書を捨てて街に出よう」と書いたのは寺山修司。

世の中には「えい!」の法則と言うものがあるそうです。これは、考える事も大事だけど、エイと掛け声を掛け、やっつけてしまふこと、行動の重要性を示唆している言葉みたいですが、何にでも失敗はつきものです。でも失敗を恐れずには何も出来ません。高いリスクをとるものが、高い報酬の見返りを受

けることが出来る。このことが、時代の要請のようです。

しかし、単に行動する重要性と一言に言ってもそれほど簡単ではありません。どんなすばらしいアイデアも実行に移して、初めてその発想の良否が解ります。実行に移すには大きな気力とパワーが必要です。このような意味で、これからは、過去の成功経験に囚われない、自由な発想とそれを実行に移せるパワーのある若者の力が必要ではないでしょうか。

今年の私たち組合は、これから10年先の組合を担うべく、新しい発想とバイタリティーを標榜し、活力のある若い人と、経験と実績のあるキャリアが、相互に啓発しながら、組合運営に邁進して行ける風土と組織を創っていくことが重要と考えます。

山形県組合は、会員数も少なくまだまだ発展途上の組合ですが、東北地区連の皆様と手に手を携え頑張りたいと思ひますので、宜しくご支援、ご教示、会員皆様の益々のご発展を心より御祈念申し上げます。

新春に寄せて



福島県屋外広告美術協同組合 理事長 根岸 義雄

東北地区連合会々員の皆様におかれましては、お健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

扱て、本県の経済状況も他の県の皆様と同様、きびしい状況が続いております。

そんな中で昨年十一月七日に福広美では創立四十周年記念式典を催した処、業務多忙にもかかわらず東北各県の理事長様方の御出席を賜わり盛大に挙行する事が出来ました。

昨年の当福広美の最大のイベントは四十周年記念事業でした。記念講演会・記念式典・四十周年及び労働大臣賞受賞祝賀会・完成したばかりの東北一(自称)の見本市会館ビツクパレットふくしまでの第二十六回福島県屋外広告美術展の開催・それに百八十ページに及ぶ記念誌の発行でございました。

きびしい中での一連の行事計画でありましたが、三役始め組合員の方々が一生涯懸命に努力して下さいまして、一応成功との評価を受けております。

これもひとえに各県の理事長様始め当福広美組合員の方々のお陰と紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

本年はいづれも平成十三年に開催される、うつくしま未来博と第三十九回技能五輪全国大会ふくしま大会への対応でございます。

本年は屋外広告美術展で未来博のテーマで三回目、技能五輪は二回目でありまして、本年は未来博宣伝の為県内全市町村に美術展の作品を寄贈する事になっております。

技能五輪では出場選手確保が重要課題で先に開催した各県の状況を参考に努力する覚悟であります。

それに本年四月一日より福島県屋外広告物条例の改正が施行されます。県の説明会への協力と共に景観を配慮した作品の提供と条例の遵守を基本に行動するつもりです。

明るい話では、福島県の陸上界での活躍がございました。昨年十二月の全国高校女子駅伝での田村高校の優勝、本年一月十七日の全国都道府県対抗女子駅伝の四位入賞、そして第四回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会は一月二十四日広島で行われまして栄えある二位入賞と快挙続きで「駅伝王国ふくしま」の名を全国に知らしめました。

東北の陸上界では常勝宮城が常識になつておりましたが、これからは常勝ふくしまが通例になるのではないのでしょうか。

この効果が景気に反映してくればと願うばかりでございます。

昨年十二月の月例経済報告で堺屋太一にあるものの「変化の胎動」も感じられるとのべまして少しづつではあるが、明るさみえるとの事ですので、それのぞみを託したいと思ひます。

本年も昨年同様皆様と一緒に頑張る所存でありますので、御指導・御交誼の程お願い申し上げます。

真の看板職人

青森 葛西 俊彦 さん

息子の私が書くのも恐縮ですが、看板屋の歴史を築き上げた職人の一人として株式会社葛西金文字会長葛西俊彦をご紹介したいと思います。昭和21年、馬具・馬の鞍等の飾りに、今でいう真鍮の切り文字や、模様を作ったのです。レーザーも糸のこもありません。幅3ミリから6ミリくらいの「平たがね」で、真鍮や洋銀に傷をつけながら切り込むのです。文字の回りを「やつとこ」等でかすとりし、文字の中は、ポンチで抜き、たがねのあとをやすりで仕上げ、1寸から2寸くらいの切り文字にします。それを切り株を下敷きし、大小の丸形や球型のかなつちでかまぼこ型にしていきます。裏に両開きの脚をはんだ付けし、表面の植型を墨ときをし、ばふをかけて、装飾文字の仕上がりです。あ、たがねや植さばきは今でも、目に焼き付いています。

誰に教わるのではなく、自分で工法を考え、自分で技術を磨いていく姿勢が真の職人だと思ひます。

その後、看板業に移つてもその姿勢は変わりません。現代の様にメーカーや各方面からの情報などある訳がありません。金文字の加工方法、金箔の貼り方、塩ビ板の曲線の出し方など、あげればたくさんあります。極めつけは今でいう彫刻機のないときに、ボール盤にくさび型にした刃をつけ、高さを調整をして、アクリル板を動かして、室名札等の彫刻をしたのには驚きました。発想もすばらしいが、技術的にも曲線は誰も出来ませんでした。

看板業のかたわら、町内の組ねぶたも作りました。細竹、針がね等で形をくみ、紙を貼り、絵つけまでやりました。これも、誰にも教わらず、他のねぶたを参考にしながら、自分なりの組み方、考え方で製作したものでした。

看板業のかたわら、町内の組ねぶたも作りました。細竹、針がね等で形をくみ、紙を貼り、絵つけまでやりました。これも、誰にも教わらず、他のねぶたを参考にしながら、自分なりの組み方、考え方で製作したものでした。

### 東北のつわものたち ⑮



岩手の大もの No.2  
岩手  
小松 久夫さん

この技術を利用し、弘前城もみじと菊人形のガラづくりを始めました。このイベントは、東京から、高い賃金を払って技術者を呼んで会場づくりをし、始めなければと菊人形のガラづくりを、始めたわけでは、会場内のレイアウト、イベント企画、設計までやるようになり、今ではほとんど地元で力だけで開催できるようになりました。

研究心と、発想力、そしてそれに伴う技術力。この看板業界の発展に寄与した、津軽の真の職人の一人だと思えます。現在75才、現役は引退したものの、まだ、我々の職人の手本として活躍してもらいたいと考えております。

この業界もコンピューターに支配されるようになりましたが、最終的には人間の手と感覚によるものだと思えば、親父のような「職人魂」こそが、看板業界を支えていく唯一のものだと思うし、また、持ち続けたいと考えます。

青森県屋外広告美術協同組合  
弘前支部 葛西 憲次

岩手広美では、平成9年秋の叙勲褒章で高橋徳一理事長が日広連の推薦により勲五等瑞宝賞を受賞され、平成10年2月7日ホテルメトロポリタン、ニューイングに於て受賞記念祝賀会が盛大に開催され、萩生日広連会長を始め、百七十四名の参会者でにぎやかな一時を過ごした。総合報道の紙面によれば「日広連始め、単組の会員の皆さんのお力添えあつての受賞と思つている。組織を大切に今後とも頑張つて生きたい。戦争体験のある私にとって平和な時代に勲章をいただくということとは感慨もひとしお。平和のありがたさを感じている」と理事長のうれしいコメントが載っていた。

そして昨年、連鎖反応ともいえる嬉しい快挙の連続事件が起きたのである。まず、最初に岩広美、技能開発担当の高松工芸、一條八平太さんが平成10年度の職業能力開発関係「労働大臣表彰

を受賞、更に第21回東北六県公共キャンペーン作品展に於て岩広美、ナリタ工芸、成田玄治さんがコンクール最高賞の「建設大臣賞」に入賞したのである。

今回の「東北のつわものたち」の記事は、第13回技能グランプリ第一位、労働大臣賞に輝いた岩広美、モリオカサイン小松久夫さん(当時、長沢画房)を岩広美機関誌の寄稿文から抜粋して紹介したい。

『中学のころは、体育と音楽、美術を頑張りました。5科目(国語、数学、理科、社会、英語)以外で目立ちたかっただけです。勉強では負けてもその他では負けたくなかった。これも自己表現なのかも知れません。何か自分を同級生、全校生にアピールしたかった。出身は東北の岩泉です。岩泉中・高ともバレーボールをやり休みは、お盆と正月だけ、親に対しては無口でした。親にしてみれば何を考えているのかわからなかったでしょう。(笑)ちやいませ「めし、ふる、ねる、こずかい」おやじのセリフみたいですね。

今もええおかしうて。

そのバレーボールは今でも続けています。(マネージャーですけど)学生のころはおもしろくて、おもしろくて、ごはんを食べてはバレー、起きてはバレー、とにかくおもしろくて、クラブ活動がおわっても、カップラーメン、ジュースを飲食しながら友達とバレーの話。話をすれば時間も忘れ家に帰るのはいつも9時位になってしまつて、そんな毎日でした。

とにかく何かに集中してなければ満足できなかった。そして高校3年間で終わり、82年に長嶋看板店に入りいろいろな技術を学びました。

今まで31年間の人生に於いて、この長嶋さんでの8年間は最も充実していたように思います。

作品は全体の3分の2が黒という、ゴミがある作品です。幾何学模様の割り付けはスポーツ(バレーボール、スキー)で培った体力を生かし、スピードで勝負でした。

スペース配分は練習を3回しましたので、どの部分がどれだけかかるのかは、わかりますので、前日はバックと文字と、塩基配列の割り付けまでです。

板ガラス・アルミサッシ・プラスチック  
建材・各種卸・施工



**株式会社 ガラステック東北**

本社：〒983-0034 仙台市宮城野区扇町5丁目3番38号  
TEL 022-232-2255 FAX 022-284-8202  
TEL 022-232-5387 FAX 022-232-5386

仙北支店：〒989-6251 古川市小野字中蝦沢139の94  
TEL 0229-28-2743 FAX 0229-28-1955

山形支店：〒990-2447 山形市元木2丁目13番24号  
TEL 023-622-0201 FAX 023-622-0204

石巻営業所：〒986-0853 石巻市門脇字浦屋敷80の1  
TEL 0225-96-9010 FAX 0225-96-9009

塗料・塗装関連資材・機材  
看板・プラスチック資材・機材の総合商社

**株式会社 光彩塗料商会**

代表取締役会長 今野 紳  
代表取締役社長 二階堂 宏 信

本社：〒983-0833 仙台市宮城野区東仙台四丁目3番43号  
TEL (022) 293-3151(代) FAX (022) 293-3154

多賀城営業所：〒985-0873 多賀城市中央三丁目7番5号  
TEL (022) 364-2921(代) FAX (022) 364-2046

福島原町店：〒975-0051 福島県原町市牛来字出口63番の3  
TEL (0244) 22-2836(代) FAX (0244) 22-2875

サインデザインのためのカラーシステム



**NOCS 2500**  
〈ノックス・ニー・ゴー・マル・マル〉



**株式会社 中川ケミカル**

仙台営業所：〒981-0912 仙台市青葉区堤町3-5-23  
TEL 022-271-9003 FAX 022-273-2181

本社：〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-7-13  
TEL 03-3668-8141 FAX 03-3668-5705

看板資材卸販売  
プラスチック各種

上記の事ならなんでも気軽に御相談下さい。

**東北藤光株式会社**

仙台市宮城野区福田町南一丁目2-46  
TEL (022) 254-0611  
FAX (022) 254-0608

午前が3、午後が4時間です。2日目  
が2時間半と延長30分の計10時間。  
バックのぼかしを割り出し、ぼかし  
模様の割り出し、色ねり、人物とだぶ  
るところは、はぶき、タイトル書き、  
人物のベタ、左側のサブタイトル、右  
のグランプリの文字(この文字は2・  
25位の明朝体です、人物の線を入れる、  
そして球の割り出し、若干時間があつ  
たので球の中心の球を塗ることができ  
1日目は予定より進みました。

2日目は、球の外側の球、ところが  
会場の空調が乾燥がよくて、ぼかしが  
うまくいかなかったけど、皆も同じだ  
と思ひ、ベストをつくしました。終わ  
ったのが終了10分前でした。

終わってみれば長かったような、短  
かったような、不思議な2日間であ  
った。競技の1日目が終わった後、広告美  
術職種だけらしいんですけど、ホテル  
でミーティングが行われ、競技の途中  
でしたが、暫し忘れ、各テーブルごと  
に仲良く、そして全体でもなかなか良  
い雰囲気でした。

岩手広美情報文化委員  
鎌田 昌 孝

東北のつわものたち ⑬

ヨットレース  
山広美 庄内支部  
技術部委員会  
岡部 弘和さん

毎年の行事である酒田・飛鳥間ヨッ  
トレースは、ヨット・海洋についての  
知識・技術を高め、レースを通じてお  
互いの親睦と海の仲間の友情を深め  
その他の向上を図るために行なわれて  
おります。

参加資格としては、日本ヨット協会  
に加盟していること、無線機144MHz  
(2M)を搭載していること、船  
長が7M以上の艇であること、自力復  
元性を持ち荒天下の波浪やその衝撃に  
耐え、その船体は適正に機装されバラ  
スト配置された完全な耐航性を持って  
いることが条件となっております。レ  
ース委員会は艇と乗員の安全は、オー  
ナーの義務であるために一切の責任は  
負いません。

我等の艇種はYA-33II、33フイート、  
船名は獅子王、定員は12名です。レ  
ースの中止基準としてはレース一時間前  
に於て風速10M以上、波高3M以上  
になると中止します。

海・潮の香りに魅せられた男、たま  
に女たちが、天然記念物「海猫」と渡  
り鳥の中継地で野鳥の天国、バードウ  
ォッチングが最近メッカとして知られ  
て来た「飛鳥」をめざす分けてです。

定期航路、ニューとびしま船で行け  
ば、酒田・飛鳥間約38km?90分で行け  
る所なんですヨット帆走となると風  
次第なんです、だいたい4時間位、  
島を回って一時間、帰路に4時間とみ  
ると9時間も海の上を漂っていること  
になり、ケツも痛くなるというもの。  
強風が吹けば油断がならず疲れるし、  
無風状態であれば暇なものでビール等  
に手を出し飲み過ぎてしまいうし皆酒飲  
みの集まりで、海の上での酒は最高!  
事故のないよう人それぞれに考えて乗  
っておりストレス解消、気分的に生き  
ているなあーと感じます。

先日のレースについて記してみます  
と、午前5時がスタートとなっており、  
前日より船内に泊まり朝の3時に起床  
し出港準備をし、夜が明けぬ午前4  
時頃出港し暗い中北港沖で船回しなが  
ら午前5時時計の針をみながらスター  
トラインへ、白い帆が月明りの中でき  
れいです。参加艇は9艇であった、ス  
タート時点で風が弱く全艇だんご状態  
になる始末。三々五々目的に向い風を  
さがし帆走、途中で又、又、だんご状  
態になる。飛鳥に近づいて風も出始め、  
それでも昼過ぎて島を回った時点で午  
後一時半となる。酒田港フィニッシュ  
にはタイムリミット午後の5時に2分  
10秒前ということでギリギリの入港で  
あった。

9艇のうち4艇はリタイヤとなる、  
レースであつた。

我等の艇は平  
成4年8月に酒  
田開港500年  
記念事業でウ  
ラジオストックへ親  
善ヨットクル  
ーズに行っており  
ます。この時は  
ロシア艇8艇、

全国より日本艇13艇参加しました。  
皆さん海に出る時は、ライフジャケ  
ットを正しく装着し、ゴミなどを捨て  
ることなく、マナーを守りましょう。  
山広美情報文化委員  
古川 朝 世

東北のつわものたち ⑭

オラホのサブチャン  
秋田県屋外広告美術協同組合  
松島看板店 社長  
松島 義直さん

最近、昔ほどの視聴率はないと言  
われているが、年末、大晦日恒例のNHK  
紅白歌合戦がブラウンカンの中で  
繰り広げられる。昨年は皆さんご存じ  
のように、あの大物実力派北島サ  
ブチャンがどうしたものか、途中で歌詞  
をとばしてしまつた。イワユル「ボカ  
」をしてしまつた。だから白組が負け  
た。などとマスコミは騒いだりもしたが、  
それも芸能界の戯れ。人間的にも素晴  
らしいサブチャンにはいささかの損傷  
はないと思う。それと同じようなこと  
が、これから紹介する我「秋広美」の  
サブチャンこと松島看板店代表の松島  
義直先輩の身の上にも降りかかったの  
である。松島先輩は歌が好きで、カラ  
オケのまだ普及していない原始カラオ  
ケ時代の高校の頃から、父親の田畑の  
手伝いなどの折々にノドを鍛え、各種  
のど自慢大会などに出場し、賞状やら  
トロフィーをかき集め、歌三昧の日々  
を送っていた。今から七年前には近隣  
の町で行われたNHKのど自慢に出場  
し、みごと鐘三つをならした。もちろ  
ん歌はサブチャンのものであつた。そ  
んなこんなで今や地元のカラオケグル  
ープ「美翔会」のリーダー的存在であ  
り、各種大会の審査員でもある。

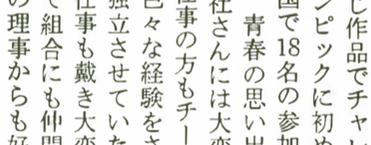
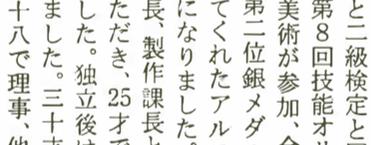
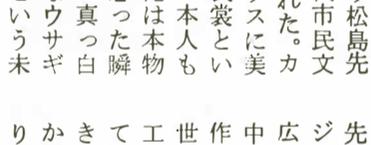
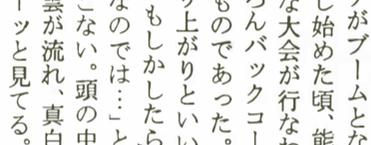
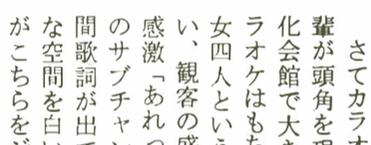
さてカラオケがブームとなり松島先  
輩が頭角を現し始めた頃、能代市民文  
化会館で大きな大会が行なわれた。カ  
ラオケはもちろんバックコーラスに美  
女四人というものであつた。衣裳とい  
い、観客の盛り上がりといひ、本人も  
感激、あれっ、もしかしたら俺は本物  
のサブチャンなのでは...と思つた瞬  
間歌詞が出てこない。頭の中の真っ白  
な空間を白い雲が流れ、真白なウサギ  
がこちらをジーンと見ている。という未

だかつて体験したことのない訳わか  
らない状態に陥つた。ひとまずうっす  
らと意識が戻りつつあつたその時に、  
誰かの低くうめくような声が聞こえて  
きた。何のことはない自分の声である。  
とにもかくにも「ウー、ウー」と曲に  
合わせ反射的に唸っていたのだ。まさ  
に紅白のサブチャンを暗示するかのよ  
うな、サブチャン大好き人間松島先輩  
の姿であつた。それでも一番の後半か  
らは我に帰り、熱唱の末、拍手喝采で  
歌い終えたことは言うまでもない。  
ちなみに秋広美の総会での懇親会  
は、ほとんどお酒を召しあがらない松  
島先輩のカラオケを聞くことができる。  
もちろん歌はサブチャンのものである。  
仕事のことでのエピソードなども同  
い、大層勉強になり面白かつたのだが、  
なるべく仕事から離れた人生の部分  
をピックアップしてみました。  
秋広美 情報文化委員  
照井 勉

グループサウンドズが大流行、タイガ  
ース、スパイダース、ブルューメツツ  
その時代はこの業界に不安と希望で、  
小さい時からマンガを描くのが大好き  
な六人兄弟の末っ子、ちよつと足の短  
かい私、(前)アルス社(現)アルスプロ  
グレス)に入社、昼休みは新聞紙に練  
習、六ヶ月で立看板を書けるまでにな  
り、毎日が楽しい夢のある仕事、十八  
才で技能オリンピック県予選に同社の  
先輩と二級検定と同じ作品でチャレン  
ジノ第8回技能オリンピックに初めて  
広告美術が参加、全国で18名の参加の  
中、第二位銀メダル、青春の思い出を  
作ってくれたアルス社さんには大変お  
世話になりました。仕事の方もチーフ、  
工場長、製作課長と色々な経験をさせ  
ていただき、25才で独立させていた  
きました。独立後は仕事も戴き大変助  
かりました。三十才で組合にも仲間入  
り三十八で理事、他の理事からも好

東北のつわものたち ⑮

技能グランプリ大会  
拘りの挑戦  
福広美 郡山支部  
(前)アーム芸  
野地 良三さん



**塗料と看板資材**

**鴨沢塗料株式会社**

本社 TEL (0178) 28-2055(代)・FAX 28-2056  
看板資材部 TEL (0178) 43-3567(代)・FAX 43-3568

サイン・ディスプレイ スクリーンプリント **システム&マテリアルズ**  
桜井株式会社代理店

**有限会社 青森桜井**

〒038-0042 青森市新城字平岡 109-248  
TEL 0177-88-9101(代) FAX 0177-88-9102

**AIU 保険会社** 東北地区本部 担当: 長谷川

**大好評**

協同組合災害保障制度は...

- \* 入通院は、1日目からお支払いします。
- \* 治療のために自己負担した治療費用もお支払いいたします。
- \* 無記名方式(人数式)でご契約ができますので、人の入れ替わりも自動的に保障されます。
- \* 労災を待たずに使えるので 使いやすい。
- \* 保険金の受取は全て法人であり、見舞金制度としてご利用いただけます。
- \* 保険料は年齢・性別に関係なく一定で、しかも、全額「福利厚生費」として 経費処理ができます。
- \* 経営事項審査の加点ポイント(7.5)になります。
- \* 掛金も団体割引がきいてさらにお得です...

制度についてのお問い合わせは下記まで

**AIU 保険会社** 東北地区本部 担当: 長谷川  
〒980-8449 仙台市青葉区中央 1-3-1アエル16階  
TEL 022-266-5811 FAX 022-227-0211

れ幸せ者です。毎年秋になると技能グランプリ選手だれにする、私には縁のないことだと思っていました。一級も取っておらず出場資格がありません。一級を早く取って出場しなければダメとのことでやっとのことで一級合格したと同時に出場、全然見たこともない、どんなことをやらせられるのかさ、二月の課題に不安がいつぱいの連日の練習、深夜2時、3時はあつという間、カメラで撮って引換え取換え、技能開発委員長の佐藤義信さんの良きアドバイス、指導のもと何とか作品うくん入賞はするでしょうの一言、あとは大会に、全国で28名、競技者の若いのにビックリ。ほとんど高齢者ばかりの人だと思っていました。開会式抽選で場所決め、私は審査員のすぐ近く、部門別の開会式、タイトルがない、だから楷書筆でないですかの問いに、良かったら私書いてあげますよと、角ゴシック体で書いてあげました。後を振りかえると選手が全員見えました。さすが看板屋とひやかしズルイ福島点数稼ぎ大会一日目の夜選手の懇親会の席上でも自己紹介で今日の記念に似顔絵を描いてあげます。35名食べ物も食べず審査員まで描いちゃいました。またもポイント稼いだと言われ、しっかり目立ち屋さんに、結果の方は、効果有りの二位かな、それとも堂々の二位かな。選手の方とも短かい日々でしたが同じ目的を持つ仲間としていい思い出に、ページ増えました。すっかりクセになり翌年自分からまたやらして下さい。今度こそ金メダルを、バカ今度賞に入らなかつた場合、昨年はまぐれだゾォーと言われっぺ」と現、理事長の根岸さん、またも懇親会で同じパターンで似顔絵描きを。出来具合は昨年よりも心ではいけるかも、結果はまたも二位。一年充電して、三回目の出場。今回は今一、燃えない、マシクでの練習でラクラク、苦勞がない分ダメなのが大会始目でほぼ完成してしまつた。結果は金は遠く取賞にも名前がない、エー、そう一瞬目の前が真暗に、私に取って初めて一般席での表彰式。入賞しない人が味わう席。県の方、組合の方にどんな顔で期待してくれた人に何て言

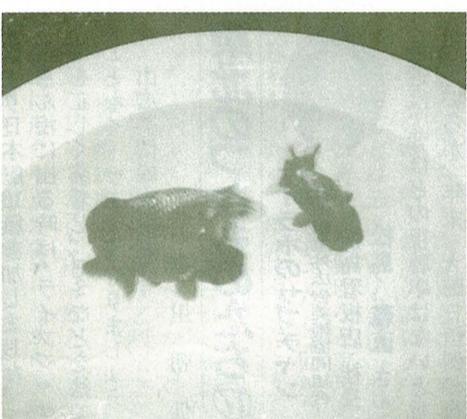
でも、またチャレンジする機会を与えてくれた。益々腕を磨き出てこいと云つてることか、たしかに金を取ればグランプリ出場の権利はなくなる、多くの人も出合もなくなるヨと教えて下さつてののかなア。私には金が似合わない、この人間に金をくれると人が変わるよと天の声かな。でもチャンスがあればまたチャレンジします。チャレンジ精神は自分を若くする。技能が低下する昨今、技能にこだわり、作る喜び、描く楽しさを、苦勞あつての喜びを、後進の方に伝授して行きます。この大会のお陰で全国技能フェスティバルに日広連の要請で東京にて似顔絵を三年間続けています。二日間で約百人と盛況で全国的にも目立ちたがりの私なのかもしれません。 福広美情報文化委員 黒 沢 功



ミスターランチュマン  
えーっ看板屋が?と初めてその趣味を聞いた時は正直ビックリしたものだ、考えてみれば、美しさがテーマと考ればむしろ共通点が多いのかも知れません。

東北のつわものたち 19

る暖かくなつて来ると、採卵、孵化、さらに選別作業と、それこそ明け方から始まらない間に合わない程の忙がしきで、看板の仕事どころではないと事です。筆者の見る目では、とても豪華で、美しく見えるものでも、それはノラだと言われ、逆にそれほど思われないうものが数万円だという。何やら難しい世界のようなです。一匹のそれこそ何十万円という親からだけでも七千匹、八千匹の子を孵化させるもの、ものになるのはそれでもほんの一匹か二匹でほとんどはゼロというから物凄く低確率だ。気が遠くなるような数の選別を余儀なくされるの事。それでもこれはノという一匹にめぐり逢えた時の喜びはこの上なく、だからやめられないのだそう。東北の皆さんで興味のある方は是非連絡してみたいかがでしょうか、又、来てくれればいくらでも差し上げる(もちろんそのうちハネられる運命にあるランちゃん)との事です。しかし、色々な趣味を持つておられるご同業が居られるものです。実際に見るにつけ話しを聞くにつけ、なる程と引きつけられる様な気もしますが、その世話となるといささか……。今年、去年のうちから有望な親金魚を各地を回って色々と仕入れてあり、必ずや数多くの絶品をと意気込んでおられました。全国、数の中には一匹何千万円もしたのも出たそうで、そんなのが何匹もとれたら大金持ち夢ではないのでは、と筆者も人ごとながら思つたりしています。



森さんが飼育している金魚は、鱗鱗(らんちゅう)という種類のものです。何百万円もかけたという飼育施設に、デッキ水槽をいくつも並べて育てています。今は冬眠中であまり動かないので手もさほどかからないが、そろそ

第41回  
**日広連全国大会**  
“感動の再会を”  
1999年6月2日(水)  
東京・ホテルグランパシフィックメリディアン  
(会場:パレロワイヤル)

- 宮広美情報文化委員 佐藤 孝  
東北地区屋外広告美術業組合連合会  
情報文化委員会・機関紙「東北」編集委員会  
委員長 国分 薫(青森広美)  
委員 鎌田 昌孝(岩手広美)  
委員 照井 勉(秋田広美)  
委員 古川 朝世(山形広美)  
委員 佐藤 孝(宮城広美)  
委員 黒沢 功(福島広美)
- 今年有望なランちゃん、是非いい子をたくさん生んでご主人様を喜ばせて上げて下さい。  
ちなみに借しくも選別もれた金魚を近くの小川に放すと、子供たちは大喜びで、捕まえて楽しんでるのだそうです。何かほほえましい(本人たちにとつてはもしかしたらいい迷惑)感じがします。  
連絡先 〒989-1231 1  
宮城県亶理郡亶理町荒浜字  
新御狩屋65の1  
(0223) 3512104(代)  
③3328

**NIP**  
NIP corporation

株式会社  
**ニップコーポレーション**

本社 〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-29-19  
TEL (03) 5952-5501 FAX (03) 5952-1051  
仙台営業所 〒984-0042 仙台市若林区大和町3-4-20  
TEL (022) 232-7411 FAX (022) 238-0271  
青森営業所 〒038-0002 青森市沖館4-7-51  
TEL (0177) 82-1331 FAX (0177) 81-4091  
秋田営業所 〒010-0942 秋田市川尻大川町3-23  
TEL (0188) 65-6731 FAX (0188) 65-6732  
盛岡営業所 〒020-0816 盛岡市中野1-24-13  
TEL (019) 623-1901 FAX (019) 623-1913

ここまできた。高機能マーキングフィルム。  
ビューカル  
**Viewcal 900**  
シリーズ

最新鋭の画像・出力ソフト「スターシリウス・シリーズ」

企画開発型商社  
**桜井株式会社** サイン・グラフィック営業本部

サイン・グラフィック東日本営業部	〒110-0015 東京都台東区東上野1-9-6 (U-PALBLD.3F)	☎(03) 5688-5021 (代表)
サイン・グラフィック名古屋営業部	〒456-0022 名古屋市中区東区横田2-1-29 (石川ビル)	☎(052) 6683-9090 (代表)
サイン・グラフィック関西営業部	〒540-0028 大阪市中央区常盤町2-1-8 (櫻和ビル)	☎(06) 944-0761 (代表)
札幌支店	〒060-0062 札幌市中央区南2条西13	☎(011) 241-7891 (代表)
仙台支店	〒983-0043 仙台市宮城野区荻野町1-19-1	☎(022) 237-1820 (代表)
九州営業部	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南4-10-36	☎(092) 411-2238 (代表)
商品開発部	〒111-0032 東京都台東区浅草4-30-3	☎(03) 5603-0401 (代表)

http://www.sakurai.co.jp